



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。

農高に投票所■中山間で巡回車



←票を投じる三本木農業高校の生徒
(25日、青森県十和田市で)

生徒が次々と投票所に入り、候補者の名前や政党を書いた用紙を投函(とうかん)していく。青森県十和田市は25日、県立三本木農業高校に初めて期日前投票所を設け、18歳以上で選挙権を持つ8人が投票に訪れた。

衆院選の投票率は低下が続くも期日前投票の割合は増加中



識者「吟味して」

■選挙制度に詳しい明治大学の牛山久仁彦教授(政治学)の話
自分の都合のつく日に投票できる期日前投票は、投票率向上に有効だ。ただ、投票先を検討する時間が限られるのが課題。政党は早い段階から、具体的な政策を発信し、有権者もできる限り情報を集め、吟味して投票に臨む必要がある。

衆院選の投票率向上のため、青森県十和田市は県立三本木農業高校に初めて期日前投票所を設け、若者の投票を促しました。生徒は各党の公約をネットで事前に調べるなどして投票。鹿児島県南九州市は、バス車内に投票箱を備えた「移動投票車」の運行を始めました。(10/26付1面)

農村広がる「期日前」

審判 '21衆院選

衆院選の投票率向上を目指し、期日前投票を農村地域で推進する自治体が増えてきた。31日の投票日まで1週間を切り、全国で期日前投票所を切り、10代向けの農業高校に投票所を設けたり、中山間地域の高齢者に配慮して車に投票箱を載せて巡回させたりと、手法は多様だ。

環境土木科の成田聖翔さん(18)は各党の公約を事前にインターネットで調べて投票した。新型コロナウイルス終息を願い、関連政策を比較。多くの人の仕事や生活に支障が出る中「ワクチン接種をさらに進めてほしい」との思いを込めた。若者の投票を促した。若者の投票を促した。若者の投票を促した。

をより詳しく調べて投票するよう促した。同校の横野憲一教頭は「生徒は選挙をより意識するし、事前に投票できるに参加しやすい」と考える。鹿児島県南九州市は2019年参院選から導入。それまで衆・

北海道米 食味、温暖化のおかげ!?

自民・麻生氏発言に波紋

「農家のおかげか、農協の力か。違う。温度が上がったからだ」。自民党の麻生太郎副総裁が、北海道産米の食味向上の理由を巡り、こう発言した。食味向上へ道内では、行政やJAグループが連携して栽培適性などを研究し、試験場による品種改良や農家による試験栽培を積み重ねてきた。理由を温暖化に限定するよう発言は今後、波紋を広げそう。

農相「農家の努力に尽きる」

麻生氏は25日、道内で同党衆院選候補の応援演説に臨み、「温暖化と言うと悪いことしか書いていないが、いいことがある」と指摘し、道産米に言及。「昔、『やっかいどう米』と言うほど売れない米だった」と述べた上で、「平均気温が2度上がったおかげでおいしくなった。温暖化のおかげ」との認識を示した。発言について松野博一官房長官は、26日の記者会見で「コメントは差し控えたい」と明言を避けた。金子原二郎農相は「個々の政治家の発言にコメントするのは遠慮する」とした上で、「農家の皆さん方の努力に尽きる。気候に合った努力をした結果、今日がある」と述べた。

自民党の麻生太郎副総裁が、北海道米の食味向上の理由を巡り、「農家のおかげか、農協の力か。違う。温度が上がったからだ」と温暖化に限定するような発言。行政やJAグループの努力を否定する発言は、波紋を広げそうです。(10/27付3面)



週刊ダイジェスト

2021年10/22〜29付

日本農業新聞の読みどころ

今週の記念日

★11月1日「野沢菜の日」

野沢菜発祥の地である長野県野沢温泉村の野沢温泉観光協会が制定。日付は野沢菜の蕪主(かぶぬし)を募る「のざわな蕪主総会」の蕪主総会が、毎年11月1日に開かれることと、野沢菜の収穫時期に当たることから。野沢菜は長野県の味の文化財にもなっている信州の食を代表する名産品の一つ。

<日本記念日協会から>

1700種が自生 豊かな野草・樹木でスパイス自給

多様性はじける 佐渡のコーラ



佐渡島の野草や樹木を食材に生かすため意見を交わす、井上さん(左)と菊池さん(新潟県佐渡市で)

新潟県佐渡島に約1700種類自生するとされる野草や樹木を使った、クラフトコーラやジンジャーエールが評判です。佐渡の野草研究者・菊池はるみさん(41)が作った野草のケーキを「おにCafe」店主・井上ゆかりさん(53)が食べたことがきっかけで、2人による「おにコーラ」の開発が始まりました。菊池さんは2012年頃から体調管理のためハーブに興味を持ち、西洋と

佐渡にはタヌキより大型の野生動物がいないため、植生の多様性が保たれているとされる。佐渡の野草研究者として活動する菊池はるみさん(41)は、2012年ごろから体調管理のためハーブに興味を持ち、西洋と



島の高齢者から特徴聞き取り ■ 研究家とカフェ店主、試行錯誤

新潟県佐渡島に自生するとされる約1,700種類の野草や樹木を使った、クラフトコーラやジンジャーエールが評判です。佐渡の野草研究者・菊池はるみさん(41)が作った野草のケーキを「おにCafe」店主・井上ゆかりさん(53)が食べたことがきっかけで、2人による「おにコーラ」の開発が始まりました。菊池さんは2012年頃から体調管理のためハーブ

に興味を持ち、図書館で佐渡の野草用途を調べ、製菓店で働いていた経験を生かし活用法を探っていました。(10/26付13面)



新しい資本主義実現会議

成長・分配で所得増

初会合 地方のデジタル化も

政府は26日、新しい資本主義実現会議(議長・岸田文雄首相)の初会合を首相官邸で開き、岸田政権の看板政策「成長と分配の好循環」を通じた中間層の所得拡大に向けた議論を開始した。会議では、分配の原資を稼ぐ出す「成長」と次の成長につながる「分配」を同時に進めることが重要だとの認識を確認。首相は「最優先で取り組む課題について、11月上旬にも緊急提言を取りまとめてほしい」と指示した。

11月上旬にも緊急提言

緊急提言には、デジタル化やグリーン化の他、サプライチェーン(供給網)の強靱化(きょうじん)を通じた経済安全保障の推進などを盛り込む。衆院選

調」も創設するとして。◇創設する「デジタル田園都市国家構想実現会議」では、スマート農業など農業分野の議論にも着目する見通しだ。岸田首相は、自民党総裁選などを通じて同構想を掲げ、地方のデジタル化を進めて都市との格差を縮める考えを提起していた。内閣府は同会議を「地方活性化」とし、新しい資本主義実現会議と

政府は新しい資本主義実現会議(議長・岸田文雄)の初会合を開き、岸田政権の看板政策「成長と分配の好循環」を通じた中間層の所得拡大に向けた議論を始めました。緊急提言には、デジタル化やグリーン化の他、供給網の強靱化を通じた経済安全保障の推進などを盛り込みました。実現会議は、競争原理を重視した新自由主義から脱却し、成長の果実を社会全体に行き渡らせる仕組みづくりが目的です。(10/27付2面)



日本農業新聞 東北支所(編集担当記者) 音道洋範

稲作農家の倅のくせにイネ科アレルギーです。花粉や糞の粉塵を吸い込むと鼻水や目のかゆみが止まらなくなります。最も苦しい作業の一つが米の収穫。コンバインに乗る時はつなぎを着込んで鎌を装備し、タオルとマスクで顔全体を覆って目だけを出した完全防備スタイル。以前はかなり怪しい見た目でしたが、時節柄か違和感はなくなりました。心身とも大変ですが、収穫の喜びを感じるためにも、重装備で農作業に勤しみます。

